

病 防 第 272 号
令和元年6月3日

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察特殊報について

平成31年度病害虫発生予察特殊報第2号を発表したので送付します。

平成31年度病害虫発生予察特殊報第2号

1 病 害 名 : アセロラ炭そ病

2 病 原 菌 : *Colletotrichum tropicale*

3 発 生 地 域 : 沖縄本島

4 発 生 作 物 : アセロラ

5 発生確認及び発生状況

平成29年、出荷されたアセロラ果実において、加工処理前の追熟過程で原因不明の軟化、腐敗症状が発生した。沖縄県農業研究センター名護支所において、罹病部位から分離した糸状菌をアセロラ果実に接種したところ、原病徴が再現され、病斑部からは接種菌と同じ病原菌が再分離された。そこで、分離菌株の形態的特徴並びに *apn2* and *MAT1-2-1* 及び GS 遺伝子領域の塩基配列に基づく同定を行った結果、*Colletotrichum tropicale* であることが明らかとなった。本種によるアセロラ果実病害は国内外初記録である。発生状況調査を行った本島北部2市町計5ほ場、本島南部1市2ほ場において発生が確認され、各ほ場における発生果率は3.3~34.5%であった。

6 病 徴

本症状は収穫後の果実で発生し、常温下では保存3~5日後から病徴が確認される。はじめ軸部が軟化し、水浸状の病斑が周辺に拡がり褐変し、後に腐敗する。さらに腐敗が進行すると、病斑部は薄い菌糸で覆われ、その上に鮭肉色の分生子塊が豊富に形成される(図1)。

7 病原菌の特徴と伝搬方法

糸状菌の1種で子のう菌類に属する。PDA 培地上での性状は、菌そうは初め白色から後に灰白色、綿毛状で薄い気中菌糸を伴い、分生子塊が同心円状に密生する(図2)。分生子は無色、単細胞、円筒形~長円筒形、両端に丸みがある(図3)。菌糸は10~35 μ mの範囲で生育し、適温は25~30 $^{\circ}$ C付近である。本病原菌のアセロラにおける生態や伝染経路について詳細は不明である。本種は、マンゴー(安次富、2017)およびコーヒーノキ(柴田ら、2015)の病原として知られており、室内試験ではアセロラ分離株の同植物への病原性が確認されている。

8 防除対策

- (1) 現在のところ、アセロラの病害を対象とした登録農薬はないため、以下の耕種的防除を実施する。
- (2) 樹冠下の落果果実は、伝染源となるためほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 収穫は果実にキズが付かないように丁寧に行う。
- (4) 収穫は晴天の日に行い、降雨直後の収穫はさける。
- (5) 収穫後の果実は多湿条件下での保存はさけ、風通しの良い場所で保管する。



図1. 腐敗果

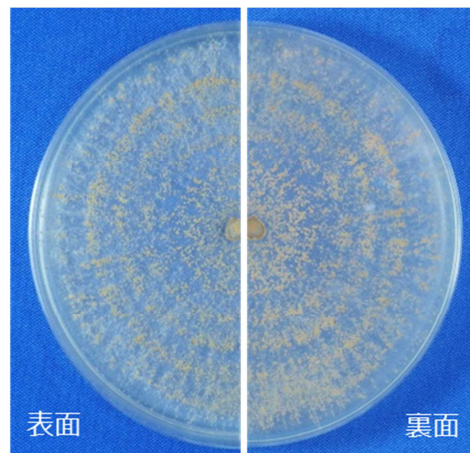


図2. PDA 培地における菌そう

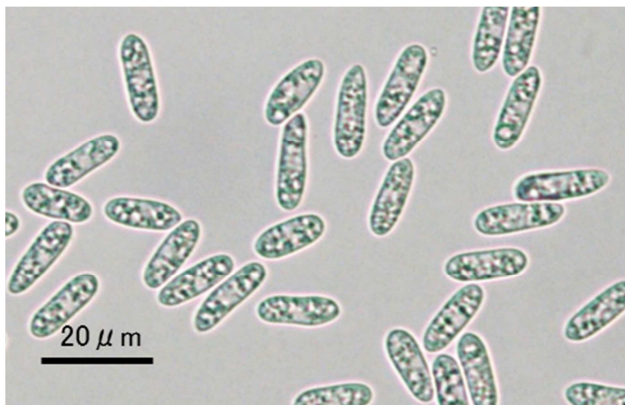


図3. 分生子

詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい

TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>